2025年度活動概要　　授業学（関東）研究会

本研究会では，「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとし，近年の学生の多様化，低学力化の原因を探り，解決法を見つけ，授業改善の方法について研究を行っている。

2025 年度は，前年度に引き続き，大修館書店から出版を計画している書籍の分担執筆および原稿検討を進めた。8 月には第 64 回国際大会でポスターによる活動報告を行った。また，1 月には中部支部，関西支部の授業学研究会と共催で，第 7 回授業学研究大会を開催した。

主な活動内容の概略を下記に記す。

(1)大学英語教員のお悩み相談企画（原稿執筆）

多様な学生に対し，大学英語教員が授業を行う場合，言語活動，学習者，授業環境など，直面する問題点について，大修館書店『英語教育』で 2022 年度に連載を行った内容を加筆修正し，複数の質問項目を追加する形で書籍を 2025 年度に出版予定であったが，遅れており，2025 年度も原稿執筆および検討を行った。

(2)第 64 回国際大会

早稲田大学で開催された第 64 回国際大会にてポスターによる活動報告を行った。

(3)授業学研究大会

関東・中部・関西の 3 支部の授業学研究会共催で第 7 回授業学研究大会を Zoom にて開催した。研究発表 2 件，実践報告 2 件であった。また，阿野幸一先生（文教大学教授）に「小中高大とつなぐ英語教育－児童・生徒・学生の学習意欲を高める指導と評価に向けて」いうタイトルでご講演いただいた。全国から約 40 名の参加者があり，盛況であった。

(4)公開研究会

2025 年度は，公開研究会を実施することができなかった。

(5)『JACET　授業学ジャーナル』

関東・中部・関西の 3 支部の授業学研究会で毎年ジャーナルを刊行しており，2026 年 3 月 31 日に第 6 号を刊行した。

(6)今後の計画および研究成果発表方法

(1)で述べた，お悩み相談企画については，大修館書店内での企画が通り，2025 年秋に出版する方向で進めていたが，原稿執筆が遅れてしまったために，2026 年度に出版予定である。既に 2025 年第 6 回理事会にて承認を得ている。公開研究会については，2026 年度は Zoom で年 2 回程度実施する方向で検討している。関東・中部・関西 3 支部合同の「授業学研究大会」は 1 月あるいは 2 月に Zoom で開催し，英語授業学についてより深く探求する機会を設ける予定である。